

くまもと経済

C 表紙の人
Cover Story

竹屋 元裕
熊本保健科学大学学長
優れた医療技術者を養成するリーディング大学へ

2 2020
月号
VOL.464

特集

八代・芦北にIT企業の集積加速
韓国客2割減、インバウンド誘致転機に
食品ロス削減／地場企業の最先端オフィス

資料 地場法人売上高ランキング／子(ね)年生まれの経営者一覧

熊本の地域コミュニティ構築に向け連携協定



崇城大学、県、熊本市など6者

調印式後の記念写真で笑顔を見せる関係者ら。左から小野泰輔副知事、星合隆成崇城大学情報学部教授、中山峰男崇城大学長、添島絵美SCBラボ副代表理事、河村邦比見熊本日日新聞社社長、上田真也Zero-Ten Park常務取締役、平井英虎熊本市経済観光局長

▶調印式後、SCBイノベーションアカデミーについて説明する関係者ら



崇城大学ならびに一般社団法人SCBラボ、県、熊本市、(株)熊本日日新聞社、(株)Zero-Ten Parkの6者は、地域のコミュニティ構築ならびにイノベーション創発に取り組み包括連携協定を締結した。

地方創生に向けた地域活性化の推進を目的に、イノベーション教育の推進、新ビジネス創出のためのネットワーク構築の取り組みなどについて協定を結んだもの。イノベーション教育については、今年4月開講予定のSCBラボが運営するSCBイノベーションアカデミー（熊本市中央区桜町、The Company熊本内）で、SCB理論に基づく地域活性化のための人材教育プログラムや、情報発信のためのコンテンツ製作、ICT技術など、イノベーション創出のための人材教育を協力し実施することを確認した。

（徳山）



▲SCBイノベーションアカデミーが入居を予定しているテナントビル外観

▶SCBイノベーションアカデミーの校長に就任する星合隆成崇城大学情報学部教授



「学長就任から約8カ月が経ちましたが、現在の感想をお聞かせ下さい。」
竹屋 本学の前身となる「化血研衛生検査技師養成所」の創立から「銀杏学園短期大学」の創

成期に至るまでの初代所長・学長を務めたのが私の祖父・男綱（おつな）でした。そんな縁が深い大学に学長として就任できたことに感謝する一方で、その伝統を背負うことになり、身が引

伝統背負い、「責任」重く 祖父は創成期の初代学長

優れた医療技術者

学校法人銀杏学園（熊本市北区和泉町、崎元達郎理事長）が運営する熊本保健科学大学は2019年5月、創立60周年を迎えた。4月には新学長に竹屋元裕前熊本大学理事・副学長が就任、新体制で次の60年に向けて新たなスタートを切った。同大学では他大学や医療機関との連携協定締結をはじめ、昨年10月には一般財団法人化学及血清療法研究所（熊本市中央区花畑町、木下統晴理事長）と「生物毒素・抗毒素共同研究講座」を設置。優れた医療人材の育成や産学連携などの推進のほか、教育・研究の充実などを目指している。「『保健医療系大学として我が国のリーディング大学の一つになる』という大きな目標に向けて、教職員一丸となって改革を継続していきたい」と語る竹屋学長に大学の現況や地域に根ざした教育、今後の計画などを聞いた。

（19年12月16日取材、聞き手／本誌会長・松岡泰輔、文・構成／編集部・堀悟史）

を養成するリーディング大学へ

昨年創立60周年、卒業・修了生は約9千人に



C 表紙の人
Cover Story

竹屋 元裕
熊本保健科学大学 学長

たけや もとひろ／熊本市中央区九品寺出身、1953(昭和28)年1月4日生まれ、67歳。熊本高校—熊本大学医学部卒。熊本大学大学院医学研究科病理系専攻(博士課程)修了。88年熊本大学講師(医学部病理学第二講座)、93年同大学助教授、2000年同大学教授、08年同大学副医学部長・医学科長(併任)、10年熊本大学大学院教授(生命科学研究部細胞病理学分野)、11年同大学院生命科学研究部長・医学教育部長・医学部長(併任)、15年熊本大学理事・副学長、17年学校法人銀杏学園評議員、19年4月熊本保健科学大学学長・銀杏学園理事に就任。趣味はテニス、合唱



▲昨年3月に熊本学園大学、同6月に崇城大学と包括連携協定を締結

就職率は開学以来100%を継続

— 学生の就職状況は。
竹屋 18年度卒業生379人のうち就職希望者が331人で全員が就職決定しました。4年制の熊本保健科学大学開学以来、継続して100%を達成しています。

学科別に見ると医学検査学科(卒業生116人)は就職希望者が100人で1人が進学、看護学科(卒業生122人)では就職希望者が100人で18人が進学、リハビリテーション学科理学療法専攻(卒業生48人)では就職希望者が45人、同科生活機能療法専攻(卒業生46人)は就職希望者が43人、言語聴覚専攻(卒業生47人)は就職希望者が43人、進学が2人でした。助産科は修了者21人全員が就職決定しています。

就職先は医学検査学科では国公立病院や大学病院が15%、病院や医療、検査センターが60%、検査センターが15%、医療系企業などが10%でした。地域別では熊本県内が30%、福岡県内が20%、そのほか九州地域

が25%、九州外が25%です。看護学科では国公立病院や大学病院が35%、そのほかの病院が64%、検査センターが1%です。地域別では熊本県内が57%、福岡県内が20%、九州外21%です。リハビリテーション学科では病院や医療が95%程度、施設関係が5%程度で、地域別では熊本県内が45%、70%、九州外が22%、7%でした。

— OBやOGの同期会も実施されているそうですね。

竹屋 卒業1年目の卒業生と教職員との懇談会を通して近況報告を行い、相互に親睦を深める同期会「久しぶり、元気かい(会)」を02年から毎年開催しています。直近では昨年2月、ホテル日航熊本に17年度卒業生208人が出席しました。参加した学生からは「認定資格取得の目標を立てた」「久しぶりに友人に会うことができて嬉しかった」といった声が聞かれました。

— 医療機関との連携は。

竹屋 本学では教育研究の充実と優秀な医療従事者を育成

丁目、幸田亮一学長と、同6月には崇城大学(同市西区池田4丁目、中山峰男学長)と包括連携協定を締結しています。熊本学園大学とは教育研究および組織運営などの分野で包括的に緊密な協力関係を築き、幅広い分野で連携していくことを目的に、今後、キックオフシンポジウムや講演会の共同開催、各大学の教職員の資質向上に向けた取り組みなどの実施に向けて協議を進めています。また、崇城大学とは教育研究および組織運営などの分野で包括的な協力関係を築き、緊密に連携することで、教育研究活動の充実、学生教育の質的向上、教職員の資質向上を目指しています。

すでに学園大と崇城大との間でも包括連携協定が結ばれていますので、今後は三大学が連携し、シンポジウム開催のほか「大学教員の教育能力を高めるための実践的方法(Faculty Development)」や「大学教員の教育能力を高めるための実践的方法(Scaffolding Development)」など二研修を共同で実施できればと考えています。

し、熊本医療のレベルアップに寄与することを目的に、済生会熊本病院(熊本市南区近見5丁目、中尾浩一院長)、熊本機能病院(同市北区山室6丁目、中島英親院長)、くまもと南部広域病院(同市南区城南町舞原、内野誠院長)、福田病院(同市中央区新町2丁目、河上祥一院長)の4病院と連携協定を締結しています。連携事項は①学生の実習施設に関する②臨床教授などの制度に関する③学生の就職に関する④大学院及び認定看護師課程の進学に関する



▲同大が開催している卒業1年目の同期会「久しぶり、元気かい(会)」

ること⑤授業及び講演などの講師派遣⑥学術または教育の課題に関する教職員の共同研究⑦職員の研修などに関する交流⑧広報活動支援に関することなどです。この協定のもと学生の実習施設の拡大や就職先の開拓、教育・研究の充実などを図っていきたく考えています。

学園大、崇城大と連携協定

— 他大学とも包括連携協定を結ばれていますね。

竹屋 はい。19年3月に熊本学園大学(熊本市中央区大江2



▲同大では教育研究の充実や医療レベルアップ寄与を目指し4病院と連携協定を締結。写真は2018年に済生会熊本病院との連携協定調印式で中尾浩一院長と握手する崎元達郎理事長(左)

地域に根ざした取り組みも多彩 化血研と共同研究講座設置

— 地域に根ざした取り組みは。

竹屋 17年4月に「地域包括連携医療教育研究センター」を設置しました。当センターでは「地域で育つ・地域で暮らす・地域で看取る」をテーマに教育と研究を行い、世代間や地域の絆を強める「つなぐ力」の醸成と、その人らしく生きることでできる「生きる達人」の養成を通して、人々の健康や健康的な町づくり貢献しています。

冊の本にまとめ後世に残す「聞き書きプロジェクト」など多岐にわたります。

このほかにも熊本大学、熊本県立大学、熊本学園大学、本学の4大学連携事業「減災型地域社会のリーダー養成プログラム」に基づき、減災リーダー育成のための「災害時における保健医療という保健科学基幹科目も設置しています。

— 化血研と共同研究講座を設置されたそうですね。

竹屋 はい。19年10月1日、一般財団法人化学及血清療法研究所(熊本市中央区花畑町、木下統晴理事長)と生物毒素・抗毒素共同研究講座を本学内に設置しました。現在の化血研では生物製剤の調査や研究開発を継続して行うスペースが無かったため、本学の施設を提供し連携して共同研究を行います。従前、化血研は本学の親組織のような存在ではありませんでしたが経営体制刷新後、KMバイオロジク

熊本西高校と包括連携
協定を締結

崇城大学（熊本市西区、池田4丁目中山峰男学長）と一般社団法人SCBラボ（熊本市西区池田4丁目・崇城大学内、嶋田英敬代表理事）は12月13日、県立熊本西高校とイノベーション教育に関する包括連携協定を締結した。県内の県立高校では初めて。

高校生を対象としたイノベーション教育の推進を目的としたもので、SCBラボが運営するSCBイノベーションアカデミーの地域活性化のための人材教育プログラムであるSCB理論、情報発信のためのコンテンツ製作、ICT技術などの学習機会の提供やイノベーション創出のための施設の運営・活用を協力して行うとしている。同アカデミーは、熊本市中央区桜町のワーキングスペース・THE CAMP ANYで、来年四月から開校を予定している。